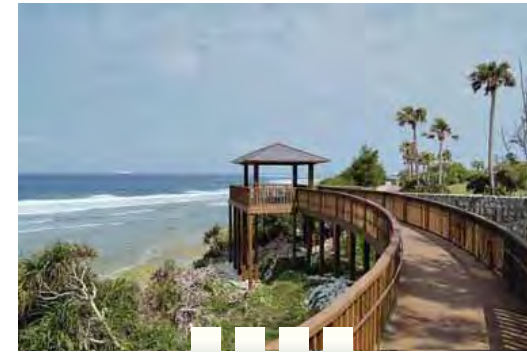


# 南風

秋号  
Vol.5  
2007.10-12

財団の事業紹介「沖縄の深海魚を展示する」ほか



ふしぎがいっぱい

公・園・点・描

## 海岸遊歩道

海洋博公園の西岸沿いに約500メートルのゆるやかなカーブを描く、風と光が心地よい海の遊歩道。沖縄ならではのコバルトブルーの海や、遠く水平線に浮かぶ島々の眺めなど、沖縄の自然を感じながらの散歩は飽きることがありません。特に大パノラマの夕焼けはおすすめです。

# ふえー 南ぬ風

誌名「南ぬ風(ふえーぬかじ)」について  
「南ぬ風」は梅雨明けとともに南から吹き込んでくる強い風のこです。この南の風によって育まれてきた沖縄の自然や文化をさらに「南ぬ風」に載せ全国に発信することを意味しています。

## C O N T E N T S

- 03 沖縄の色・形  
素朴な模様と清楚な風合い 琉球絣  
取材協力/大城廣四郎織物工房



- 06 沖縄日和  
山原通い 文=湊和雄

- 08 財団の事業紹介  
沖縄の深海魚を展示する [魚類課]  
鯨類調査 [海獣課]  
沖縄の希少植物について  
～ソノハラトノポの増殖及び育成管理技術～ [都市緑化植物園]  
冊封使関係調査について [首里城公園]



- 16 沖縄の民話  
米寿の由来 協力/NPO 法人沖縄伝承話資料センター

- 18 公園NEWS & イベント情報  
海洋博公園 10月～12月期イベント  
苗木の無料配布/ソテツを使った沖縄玩具作り体験/  
鬼餅作り体験/海洋文化館、アジア・オセアニアの民族  
芸能披露/アダンによる沖縄の玩具作り体験/都市緑化  
技術講習会/亜熱帯緑化事例発表会/植物のクラフト作り/  
「黒潮に抱かれて」放映スタート  
首里城公園  
「首里城祭」



- 20 ふしぎがいっぱい公園点描  
海岸遊歩道 海洋博公園

### 【 経 営 理 念 】

沖縄の宝、地球の宝を次の世代へ

世界の宝・沖縄の自然と歴史を通して、  
一つひとつの生命と出合い、  
地球の素晴らしさや自然の大切さ、  
時をかけて育まれた文化の尊さをまなび  
豊かな未来へ継承・創造していきます。  
そして、訪れたお客様に「感動」と「満足」をご提供します。



表紙イラストについて  
首里城祭  
東光二(あずまこうじ)  
一九五五年糸満市生まれ。76年  
東京デザイン学院卒業。83  
年個展(キヤリイ)波留、88年  
個展(キヤリイ)カタカ、98年「ト  
ヨタ自動車」カタログ表紙イラ  
スト13点製作、05年個展(那覇  
市民キヤリイ)、06年「沖縄振  
興開発金融公庫」カレンダー  
画製作(国立劇場おきなわ)  
玉城朝薫の組踊ポスタード  
製作。



素朴な模様と  
清楚な風合い

# 琉球絣

りゅうきゅうかすり

琉球絣は素朴な模様が特徴の、美しく品のある織物である。日本の絣の源流ともいわれている。

戦後、いち早く絣の復興に取り組んだのは南風原町の大城廣四郎さんだった。その工房を引き継ぐ大城一夫さんに琉球絣の歴史や特徴などを伺った。

## 親子三代の絣工房

絣は七世紀にインドで生まれ、シャム、マラッカ、スマトラ、ジャワに伝わり、沖縄には十四世紀〜十五世紀頃、琉球王国の大交易時代に伝わったといわれる。その後、絣は沖縄で独自の発展を遂げ、清楚な風合いをもつ独特の琉球絣が生まれる。その技法は「薩摩絣」さつまかすり「久留米絣」くるとみかすり「伊予絣」いよかすりなど形を変えて本土まで広まっていた。

戦前、南風原では機織りがとても盛んで、どの家からも機織りの音が聞こえていた。女子は機織りするのが当然のことであり、いつの間にか覚えていったという。かつては、那覇の垣花や泊でも盛んであったが戦後衰退していった。南風原町では、一九七七年に『琉球かすりの里』を宣言。現在、琉球絣の生産量の九〇%以上を占めている。この南風原町で、戦後いち早く琉



琉球紬の復興に取り組んだのが、大城二夫さんの父・廣四郎さんだった。落下傘やロープの糸をほぐして使うなど、物資不足の中からのスタートで苦勞の連続だったが、琉球紬の復興に大きな役割を果たした。廣四郎さんは、平成元年に伝統技法の保存や継承、後継者育成の功績が認められて「現代の名工」に選ばれ、その後「勳六等瑞宝章」を受章している。

大城二夫さんは、父・廣四郎さんから研の技法を受け継いだが、父・廣四郎さんも母親のウサさん（二夫さんの祖母）から染め織りの技法を伝授されており、大城廣四郎織物工房は三代続く研工房といえる。

「研」を広辞苑でひくと、――所々かすつたように模様を織り出した織物または染め模様――とある。沖縄では、紺地に浮かぶ研模様が飛び散っているように見えることから「トウチリ」とか「イチチリ」と呼ばれており、ほぼ広辞苑の説明通りである。それは、研の特徴である、括り染めた模様のかすれた部分の、かすれた研足の美しさを言い表している。

現在、国際的に使われている研を表現する言葉「イカット」は、マレー語で「括る、縛る」を意味している。つまり、糸を括ったり縛ったりして染め、染まった糸と染まっていない糸を織りながら模様を作り出していく染織物なのである。

方も、藍染めは常温で大丈夫だが、草木染めの場合は高い温度が必要とのこと。人々の嗜好も多様化しており「琉球紬は藍」という時代ではなくなっているという。

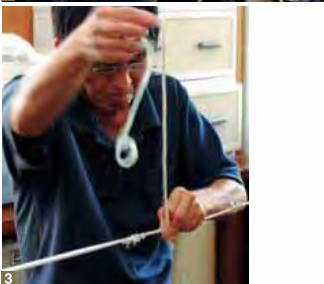
### 身近なものが研の柄に

琉球紬の原料は木綿が主流だが、芭蕉や絹も使われる。しかし、絹は染めにくいという。「私たちは七、五、三とよく言います。つまり、同じ色でも絹は七、木綿は五、芭蕉は三という割合で染める回数が違ってきます」。また、藍は温度にも敏感に反応する。二十五度と三十度が適温で、三十度を超えると酸化が始まって染まりにくくなる。昔の職人は、それを舌で舐めて判断していたという。

研を織る工程は「意匠設計」に始まり、染めから織りまで十九の工程がある。さらに、織り上がった反物も沖縄県が定めた検査規格に合格しなければならぬ。最も重視されるのが染め色と柄である。それだけに、染めと織りは手が抜けないという。



研は根気のいる仕事と語る大城二夫さん。



### 藍は生きている

琉球紬の織り方には「絵図式」と「手結式」の二通りがあり、南風原は「絵図式」で那覇は「手結式」である。「絵図式」は一本の糸が四〇センチ括られ、染められた横糸を通し、両端を合わせながら織っていくが、「手結式」は織手がすらしながら織っていくものである。

大城さんは、幼少の頃から藍の匂いや織りの音の中で育ち、小学校五年生の頃から父親の仕事を手伝っていた。しかし、将来は違う仕事したいという思いで工業高校の自動車科に進むが、父親の説得で工房を継ぐことになる。

最初の仕事は藍甕の管理だった。藍甕の中を専用の道具を使って下から持ち上げるように攪拌するのである。藍甕は、酸化防止や温度を低く保つために土に埋められた状態になっている。大城さんが仕

事を始めた頃はドラム缶（現在は陶器）を使用しており、腰をかかめながらの仕事はかなりきついものだった。琉球紬にとって「藍は命」ともいわれ、それだけに藍の管理は極めて重要な仕事である。

藍には「藍花が咲く」という言葉がある。攪拌したあとに、「パツ、パツ」と浮かんできた波紋のことである。「藍花がきれい」に咲くときが、糸を染めるのに最良の状態ですが、何回も染めていくうちに藍花がしぼんでいきます。藍は生きものですから、藍を生き返さなければならぬのです」と大城さん。糸も二回では染まらないので何回も繰り返して染めていく。五つの甕があると五つの甕で染めて二回である。それを二十回以上も繰り返すのだという。二回染めて水洗いし、その翌日にまた染める。その繰り返しです。藍の状態が良くないときは何回も何回も染めていきます。それを「重ね染め」と言いますけどね。説

- 1 藍甕
- 2 福木の黄色で糸を染めているところ
- 3 糸を括っているところ
- 4 機織りの音が心地よく響く工房
- 5 横糸を通して

明する大城さんから「藍は生きもの」という言葉が幾度も聞かれた。

琉球紬の要は藍の色だが、最近では草木染めも盛んになっている。現在は藍染めと草木染めが半々を占めるようになっており、大城さんの工房も同じだという。草木染めは藍玉を買ってくるのと違い、原料を集めて、染料として使えるようになるまですべて自分でつくらなければならない。黄色は福木の皮と葉っぱが原料である。「シャリンバイ、月桃、マンゴウなど三百種類以上も染料の原料があります。その皮や葉に水を加えて窯で長時間にわたって煮て色を出していきます」と大城さん。染め

## 染まった糸と染まっていない糸が織りなす「かすれ」の妙。



琉球紬の柄は、染料で染まったところと、そうでないところの糸を使って形作っていく。その柄は六百以上もあるといわれている。幾何学模様を特徴としているが、その模様はすべて身近にあるものをデザイン化したものである。太いひし形が上下に二つ重なっている図は、人間の肩をデザイン化したもので方言で「ムユ・ヒチー」といわれている。長方形の周りの線が太く描かれ中が空いている図柄は豚の餌箱の「トニー」、ブレイランのように弧を描いているのは「チミニ・ヌカター」で指の爪をかたどったもの、X字の形をしているのは鉄で「ハサン」、もつとも使われているのがスズメやツバメを図案化した「トウイグワ」である。

大城さんは、「研の柄は自然人間、動物、器など、私たちの身のまわりにあるものをデザイン化したものがほとんどです」と、柄のいくつかを書物で示しながら楽しそうに語ってくれた。

取材協力／大城廣四郎織物工房





# 山原通い

昆虫写真家 湊和雄

昆虫写真家になることを夢見て、琉球大学に入学したのが、今から29年前のこと。ちょうどその年の7月30日に、車が右側通行から左側通行に変更されるという時代だった。

中学3年のときに、日本の昆虫写真の第一人者の栗林慧さんのデビュー作に衝撃を受け、将来の職業に決めたのだが、悲しいかな昆虫少年と呼べるような体験もなかった。そこで、大学で昆虫学を専攻することを思い立った。また、それと同時に、国内随の昆虫の宝庫で、撮影技術の向上を図ろうという想いもあった。というのは、全く表向きの理由で、親元からなるべく遠くに離れて、好き勝手に写真を撮りたいというのが本音だったのだ。さらに付け加えれば、入試の偏差値の相性の良さも大切なポイントだ。

そんな気楽な気持ちでやって来た沖繩本島は、想像していたのとは懸け離れた環境だった。もって自然の豊かな南島の楽園を想像していたのだが、那覇の街は思いの外都会なのに戸惑を覚えた。沖繩本島で本来の自然が残されているのは、北部の通称「山原やんばる」だけだと知って落

胆した。鉄道のない沖繩、夏休みに入ると同時に、まだ右側教習だった自練通いをする毎日となった。何とかその年の暮れには念願の車を手に入れ、友人と山原ドライブに出掛けた。しかし、その山原がまた想像の世界とは懸け離れていたのだ。

それまでは、東京の実家のそれこそ猫の額もない庭でしか撮影をしたことがなかった。そんな身になって、山原というフィールドは余りに広大で、何をしたらよいのか戸惑うばかりだった。おまけに、当時の私は大の蛇嫌いだ。たまために、そこらの茂みに蛇が潜んでいるような恐怖に取り付かれていた。あの猛毒のハフが恐いではなく、蛇全般が生理的に受け付けない存在だったのだ。まあ、今にして思えば、そんなことでよく沖繩で昆虫写真家を目指そうなどと思ったものなのだが。

ところが、こんな情けない状況を払拭する大事件が起こったのだ。学部学生3年のときに、あのヤンバルクイナが発見された。当時、もう先進国内では鳥類の新種の発見の可能性はないというのが定説だっただけに、これは100年に一度あるか否かのダイユースとさえ言われた。しかし、警沢な話だ

が、昆虫学を専攻する身にとっては、まだ本気で山原に惚れるには、ちよつと核心を外れた事件だったのかもしれない。

しかし、神様はまだ私を怠けさせてはくれない。その2年後の1983年に、今度はヤンバルテナゴガネが発見されたのだ。しかも、これには日本最大の甲虫というおまけまで付いていた。

このヤンバルテナゴガネの発見のときは、今でも鮮明に覚えている。大学院に進学していたのだが、発見されたばかりのヤンバルテナゴガネが研究室に届けられたのだ。その印象と言ったら、とにかく大きい。普段、人間様は「虫けら」などと呼び、ちよつげな存在として捉えている昆虫だが、その大きさを遙かに突き抜けた存在に感づいた。この大きさに驚くと共に、この巨大な昆虫が今まで発見されずにきた、山原という自然環境の奥深さを思い知らされた。

これでは、もう言い訳は出来ない。それから毎週末の山原通いがスタートした。この生活パターンは大学院を修了して大学の資料館勤務になっても続いた。非常勤のため金曜日の午後には仕事が終わる。小型四

輪駆動車に撮影機材とキャンブ道具、食料を積み込んで山原に直行する。そこで、山原の自然にどっぷり浸かりながら、日曜の深夜まで撮影を続ける。最も多い年では、山原での撮影日数が120日近くにもなった。こんな生活を何年か続けていたら、山原に生息する天然記念物指定動物16種のうちの約半数を撮影していることに気付いた。「これなら、もう少し頑張れば全種を撮影出来るかも」という思いで、全種撮影出来たら写真集を出そう「などと考えた。しかし、これは甘い考えであることにやがて気づいた。当然のことながら、同じ天然記念物でも生息数が多く、遭遇頻度の高い種類は簡単に撮影出来る。そして、最後には目撃するのさえ困難な希少種中の希少種だけが残ってしまった。案の定、あと1種を残すだけとなってから、一年半も足踏みが続いた。オキナワトゲネズミという、学術調査でも生息が確認出来ないような存在がそれだった。

このネズミに詳しい研究者からも「山原のオキナワトゲネズミはもう絶滅したのでは？」というコメントが返ってくる程絶望的な状況だった。来る日も来る日も山奥に自動撮影のカメラをセットしては、クマネズミばかりが写っていることの繰り返しだった。そろそろ、「オキナワトゲネズミだけは撮影不可能な幻の存在でし」とコメントして写真集の企画を売り込もうかという考えが次第に大きくなり始めた冬のある日、偶然足を踏み入れた森の地面に無数の穴が

開いているのが目に入った。その周囲には、囁み碎かれたカタツムリやサワガニの殻が散乱している。その状況を見て直感的にそこがオキナワトゲネズミの生息環境だと感じた。早速、自動撮影カメラをセットしてみると、晩でフィルム1本すべてのコマにオキナワトゲネズミが写っていたのだ。

翌年、念願の山原の写真集を出版すると共に、大学勤務を辞してフリーランスの写真家となった。

撮影機材はフィルムカメラからデジタルカメラへ、さらにハイビジョンビデオカメラへと変わってきたが、私にとってのメインフィールドは現在でも山原であることに変わりは無い。しかし、その山原の環境は刻々と悪化する一方だ。森林伐採、林道開設、ダム建設など山原に棲む野生動物にとってよいことは何も見当たらない。山原の地名を全国に広めたヤンバルクイナも、発見当時と比べると生息数が半数以下、生息範囲も6割程度まで減少している。世界に誇る希少動物の宝庫の山原を、少しでも良い状態で次世代に受け渡したいものである。

## 湊和雄（みなくずお）

1959年東京生まれ。78年来沖。琉球大学大学院修士課程「昆虫生態学専攻」修了。同大学院資料館勤務を経てフリーランス。山原をメインフィールドに、琉球列島の野生動物にレンズを向ける。「ゴノハチヨウ」で第1回アマ賞、平凡社主催写真賞、受賞。「虫がいつばい」南の島」で第15回沖繩タイムズ出版文化賞受賞。琉球朝日放送で98年より「リュウキョウの自然」を担当。日本写真家協会会員。



ヤンバルクイナ  
1981年に沖繩本島北部で新種として発見された飛べない鳥。全長約30cm。国指定天然記念物。



ヤンバルテナゴガネ  
1983年に沖繩本島北部で新種として発見された日本最大の甲虫。雄の体長約65mm。国指定天然記念物。



オキナワトゲネズミ  
沖繩本島北部のみに生息する野生のネズミ。全身を刺状の体毛で被われているのが和名の由来。頭胴長約15cm。国指定天然記念物。



# 財団の事業紹介

当財団では、国民の心身の健全な発達を目的に、国営沖繩記念公園（海洋博覧会地区・首里城地区）の維持管理業務を行うとともに、亜熱帯性動植物に関する調査研究及び技術開発ならびに知識の普及啓発、首里城に関する調査研究及び知識の普及啓発活動を実施しており、その成果についてご紹介いたします。

## 【魚類課】

### 沖繩の深海魚を展示する

以深が深海と定義されています。私たちは水族館では、「生物学的な深海」をよく用いています。簡単に言えば、植物プランクトンが太陽の光による光合成

で生産するエネルギー量が、呼吸や生物的な活動により消費するエネルギー量を下回る水深より深い場所を深海と呼んでいます。つまり、深海は太陽の

光があまり届かない暗闇の世界、慢性的な食糧不足にさらされた苛酷な環境なのです。  
 それでは、沖繩の深海に眼を向けてみましょう。沖繩周辺には、東に南西諸島海溝（琉球海溝）、西に沖繩舟状海盆（沖繩トラフ）という、深い谷が存在します。沖繩は、いわば深海の中に突き出した島のごく小さな陸地。そこに130万人を超す人々が暮らしているというわけですね。沖繩美ら海水族館は、沖繩海域の大部分を占める深海にすむ生物を採集し、ありのままの生態を観察できるように様々な工夫を凝らしています。

#### 深海の貴婦人〜ハマダイ

沖繩の深海を代表する美しい魚とい

#### 沖繩の深海

「沖繩の海は深海魚の宝庫です」。沖繩の海について質問を受けると、私たちはいつもこのように答えます。沖繩は地理学上、亜熱帯地域に区分されていますが、黒潮の影響を強く受ける海は、まさに熱帯そのものです。島々はサンゴ礁に彩られ、海中はカラフルな魚が泳ぎます。しかし、これは沖繩の海のごく一部分であり、その先には未知なる領域である深海が広がっているのです。深海とは、文字通り深い海のことです。しかしその言葉の定義はきわめて曖昧で、海の中にも境界線は存在しません。例えば、人間が海に滞る場合、十数メートルを超えれば私たち人間にとって深海になりますし、地理学の世界では大陸棚の斜面（およそ200m



写真1. 深層の海水槽を泳ぐハマダイ



写真2. ハマダイの採集



写真3. 急激な減圧により胃や眼が飛び出したハナフエダイ(上)とハマダイ(下)

例えば、ハマダイ（沖繩名：アカマチ、写真1）です。ハマダイは主にインド太平洋の熱帯海域、水深2000m以深に分布する深海魚です。長く美しい尾を持つのが最大の特徴で、体は薄紅色を呈します。本種は、世界中においても飼育例が無く、水族館で飼育・展示

を行うことは困難とされてきました。2002年の沖繩美ら海水族館開館に際し、深海魚類展示の最大目標として掲げられたのが、このハマダイでした。現在、水族館深層の海水槽では、10尾のハマダイが展示されており、長いものでは、飼育年数が約6年となり、

世界で唯一生きたハマダイを見ることが出来る水槽です。水族館のハマダイ、実は水族館の職員が海で釣りをして採集しているのです（写真2）。釣りに使用されるのは強力な電動リール、そこには糸が600mほど巻かれています。ハマダイは深海魚ですから、水深およそ300

#### 深海魚と圧力

深海魚を採集して飼育する・・・一言で言えば簡単なことですが、これが実に大変な作業なのです。深海魚が暮らす深海は、低水温・高水圧・低照度という、地上では考えられない過酷な条件が揃っているのです。この中で最も飼育係を悩ませるのが、水圧です。ハマダイが棲む水深3000mの海底では、地上の30倍もの圧力がかかります。簡単に言えば、地上で膨らませた風船を300m沈めると、風船の体積は1/30になってしまいます。逆に、深海で1リットルの空気が入った風船を水面まで上げると、30リットルにまで膨らんでしまうということです。

魚には鰾（ウキブクロ）を持ったものが多く、その中は酸素を中心とした気体で満たされています。ハマダイも鰾を持っていますので、深海から釣り上げられた個体はお腹がパンパンに膨張し、口から胃を出してしまったり、肛門から腸が出てしまったりします（写真3）。これが深海魚採集における第1の関門です。そこで、私たちは注射器を用いて、鰾内のガスを外へ排出する必要があります。この作業はできるだけ迅速に行わねばならないので船上で行い、とにかく生きた状態で水族館へ持ち帰らねばなりません（写真4）。水族館へ搬入した深海魚は、急激な



写真4. 釣り上げられたハマダイを船上で治療する



写真5. 深海魚治療用の加圧水槽



水圧の差によって体に様々なダメージを受けています。人間の場合、ダイビング等で急上昇を繰り返すと罹患する「減圧症」という病気が知られています。そこで、水族館では新たに治療用の重方式の加圧水槽を設置し(写真5)、これまで治療困難だった深海魚の加圧治療を行い、生残率の向上と新規展示種の開発に努めております。

**水族館の深海魚**

水族館では、ハマダイのほか、アオダイやハチビキなどのマチ類、クロタチカマス科のナガタチカマス(写真6)、ツノザメ(写真7)などの深海サメ等、



写真6 深層の海水槽を泳ぐナガタチカマス

他では見られないユニークな深海魚を飼育しています。深海魚は生態が不明なものが多く、どのように餌を食べるか、どのくらい餌が必要か、光や温度に対する反応はどうかなど、飼育に当たって非常に多くの謎があります。私たちはその謎を1つずつ解きながら、試行錯誤して現在の展示にたどり着きました。しかし、現在飼育中の深海魚は、沖縄の深海にすむ魚の1割にも満たない種数だと思われがちです。中でも特に飼育困難とされるのが「中層性深海魚」と呼ばれる仲間です。ほとんどの方はハダカイワシ(写真8)・ムネエソ(写真9)・ホウライエソ(写真10)など、名前を聞いてもよく分からないのではな



写真7 ツノザメ属の1種

いでしょうか?これらの仲間は奇怪な姿形をしているものが多く、これぞ深海魚といった感じの魚。体の形は餌の少ない深海の中層に適応した選り抜かれたデザインなのです。これらの魚は、昏間は深い海に移動し、夜間になると200m程度の比較的浅い場所へ移動してくるため、ブランクトンネットなどにより採集することも可能です。しかし、中層性深海魚の多くは、世界中の水族館どこへ行っても飼育されていません。その理由はいくつもありますが、体が柔らかく傷つきやすいこと、中層の環境を飼育下で再現することが難しいことなどが主な要因です。



写真8 ホクロハダガ

このような魚を飼育するためには、もう少し時間が必要です。彼らの体の構造や、生態を詳しく調べ、採集方法や飼育方法を確立しなければなりません。水族館は海の生物を飼育するだけでなく、生きた個体から得られる情報を生かして研究を行うための機関でもありますが、もし、これらの魚を飼育することができれば、学術的にきわめて貴重な発見があることは間違いありません。私たち深海魚を専門とするチームは、地道に、少しずつ経験と知識を蓄積し、海洋生物学の将来に夢をつなげる仕事を心がけています。



写真9 テンガンムネエソ



写真10 ホウライエソ

**【海獣課】**

**鯨類調査**

**はじめに**

当財団では、1975年に開催された沖縄国際海洋博覧会終了後より、海生哺乳類に関する沖縄県内唯一の調査研究機関として、沖縄近海における鯨類の生息調査を洋上目視や沿岸目視により行ってきました。その成果として、1995年に沖縄近海における鯨類分布リストを作成することが出来ました。また、収集した標本等により、鯨類の分類や形態、摂餌生態、年齢査定等による繁殖生態等の調査研究を行なっております。

鯨類に関する知識の普及啓発としては、鯨類の生態や形態、生息域や生息環境等に関する写真パネル展や骨格等の標本展示並びに講演会や国際シンポジウム等の開催により、多くの方々に沖縄近海に生息する鯨類の生物学的情報の提供を行なっております。

**鯨類の分類**

現在、世界で84種のクジラの仲間が確認されています。これらは、ヒゲクジラとハクジラの2つの大きなグループに分けられます。

ヒゲクジラ  
口内上あごから下に向かって伸びる鯨ヒゲと呼ばれる硬質の板状の器官(ヒゲ板)でオキアミや小魚等をこしって食べます。地球上最大の動物シロナ

表1 沖縄近海で出現が確認されたクジラ類

ヒゲクジラ亜目	マイルカ科	シャチ
セミクジラ科		コヒレゴンドウ
ナガスクジラ科		オキゴンドウ
		ユメゴンドウ
		カズハゴンドウ
		ハバゴンドウ
		シワハイルカ
		ミナミバンドウイルカ
		バンドウイルカ
		マダライルカ
		ハシナガイルカ
		スジイルカ
		マイルカ
		サラフイルカ
		スナメリ
ハクジラ亜目	ネズミイルカ科	
マッコウクジラ科		マッコウクジラ
		コマッコウ
		オガワコマッコウ
		アカボウクジラ
		コブハクジラ
		イチョウハクジラ

ガスクジラや冬季に沖縄近海に回遊してくるザトウクジラはこのグループです。四科13種。ハクジラ 歯を持つ種類で、魚類、イカ類、エビ類などを歯で捕まえて食べます。当公園で飼育されているミナミバンドウイルカ、バンドウイルカ、オキゴンドウ、カマイルカ、シワハイルカ等はこのグループです。十科71種。

**沖縄近海に生息する鯨類**

沖縄国際海洋博覧会当時、沖縄近海に生息する鯨類の種類や個体数等を整理した鯨類分布リストは全く存在しませんでした。その後、当財団の調査で、ヒゲクジラ7種、ハクジラ21種、計28種の出現を確認し、沖縄近海のクジラ

類のリストが完成しました(表1)。

ヒゲクジラ類では、ザトウクジラの出現が最も多く確認され、ハクジラ類では、コマッコウ、オガワコマッコウ、ミナミバンドウイルカ、シワハイルカ、サラフイルカ、ユメゴンドウ、カズハゴンドウ、コブハクジラ等の出現が多く確認されました。これらは九州以北よりもずっと出現率が高く、そのため南方系鯨類と言われる所以となっています。

**鯨類調査の方法と内容**

調査の方法は、航空機や船舶を使用



写真④ 死体漂着したスジイルカ(名護市)  
\*死体漂着…死亡した個体が沿岸に流れ着くこと



写真① 迷入したシワハイルカ(国頭漁港)  
\*迷入…生存した状態で沿岸、湾内、河川など、通常はその種が分布していない水域に迷い込むこと



写真⑤ 海上拾得により保護観察がおこなわれたコブハクジラ  
\*海上拾得…死亡または異常遊泳している個体を確保すること



写真② 座礁したカズハゴンドウ(本部町・備前)  
\*座礁…生存した状態で海岸に乗り上げていること



写真③ 鏡谷定置網で混獲されたザトウクジラ  
\*混獲…生死を問わず定置網、刺し網等で捕獲されること

**【中曽根亮】**

しての目視調査、文献調査、地域住民・漁民・ダイビングショップ等への聞きとりなどの間接調査と漁業協同組合、市町村や一般の方からの情報に基づいた\*迷入、\*座礁、\*定置網等による\*混獲、\*死体漂着、\*海上拾得等についての直接調査を行います。

直接調査の内容は、種類の特定、外形計測、臓器の大きさや重さ等の測定、骨格作製、食性の調査を行います。種不明個体についてはDNA等の解析調査を行います。



【都市緑化植物園】

沖縄の希少植物について

ソノハラトンポの増殖及び育成管理技術

はじめに

ラン科植物であるソノハラトンポ（クニガミトンボ属）は、沖縄島の固有種であり、多湿な岩上や崖等に地生する典型的な溪流植物です。本種は、流水面近くにコケ類とともに岩上に付着した僅かな土壌に根茎を広げ、へばり付くように自生しています。

ソノハラトンポは沖縄北部山地の溪流沿いという限られた地域に生育すること等から個体数は極めて少なく、レッドデータブックでは絶滅危惧種に指定されています。また、平成14年8月には国内希少野生生物植物種に追加指定され、種の保存法に基づき採取や譲渡が禁止されています。ここでは、近年、特に絶滅が危惧されているソノハラトンポについて、当財団がこれまで実施してきた生育環境調査及び増殖・育成管理技術開発について紹介します。

特殊な自生地環境

本種は、一般的に半日陰や木漏れ日がさす水面近くに生育します。周辺で見られる植物は、シダ類とコケ類が多く、特にサイゴクホングウシダとヘラシダが多く見られます。ソノハラトンポは、それらの植物が生い茂った中に隠れるように生育しています。

今回、当財団が調査した河川では、

水面からソノハラトンポ自生地までの高さの平均値は約0.4m（最低0.1m、最高0.6m）でした。この範囲は、雨天の増水時には頻繁に冠水する場所、自生地周辺の降水量から推測すると年に10回以上は増水に曝されていることとなります。

また、夏場（8月下旬）に数日間実施した微気象調査では、自生地の最高温度が27℃、最低温度は21℃でした。対象とした海洋博公園（以下公園内）では、最高温度が37℃、最低温度は27℃でした。平均湿度は、自生地が90%以上、公園内と自生地との同日に観測した湿度の比較すると公園内で約40%、自生地が約15%でした。自生地の照度（測定時間：10:00～17:00）



自生地での生育状況

雲量5晴天は、最高で4,400Lux、最低で1,000Lux、平均では3,300～2,200Luxという比較的暗い環境です。

これらの観測調査等から、自生地は河川の増水、氾濫等に頻繁にさらされる場所であり、温湿度の日較差変化が小さい等、きわめて特殊な環境であることが確認されました。溪流沿いは、樹林に覆われることで水分がこもり、風が弱く、河川水のしぶき等があること等から、相対的に湿度が高く保たれ、気温・湿度の日較差が小さく変化が緩やかです。また、冬場等の夜間温度は、覆われた樹木での放射冷却現象を阻害、また、安定した水温により極端には下がりにません。特に、極端な気温・温湿度変化を抑制する現象は、



自生地での開花状況

夏場に顕著です。

ソノハラトンポのライフサイクル

自生地では、12月～8月が栄養生長期で、9月頃に花芽をつけ、10月～11月にかけて開花し結実します。10月に測定した外葉形態は、草丈15・0cm、葉は2枚で、第一葉（13・2cm）が第二葉（12・3cm）に比べやや長く、第二葉二葉とも線状被針形で先きは尖り、全縁で基部は鞘状となって茎を抱く状態になります。花は茎の先に穂状花序をつくり、黄緑色の花を7～9個つけます。結実終了後の1月頃には、成株個体の葉は黄色味を帯び、衰退していきます。しかし、多くの個体で新しい株が出芽しており、株の更新が見られます。種子からの発芽は見られず、親株

周辺の根茎からの出芽がほとんどです。

無菌播種技術及び馴化

ソノハラトンポは、主に親株の周辺より新たな株を発生させることで増殖します。種子による増殖は、他の植物と異なっており、種子には発芽に必要な栄養分（胚乳）が未発達であるため、自力での発芽は非常に困難です。自然界では、株の周辺に存在するラン菌との共生で発芽しますが、その数は、種子の数からしてきわめて少数です。当財団では、一般に種子発芽が困難なラン科植物で用いられる無菌播種での増殖方法を調査しました。その結果、ソノハラトンポは、一般に栽培されているラン類や着生ランと異なって発芽に至る培地組成や育成環境が若干異なることがわかりました。使用する種子は、成熟種子であること、播種用培地には



ラン類の育成室

ハイポネックス基本培地にリンゴ、活性炭を混入した培地が適していること、播種から約90日間は暗所で育成、プロトコーム及び仮根が1～2mm程になったときに、明所で育成することによって発芽が良くなります。さらに、育成期間を短縮する方法として、15℃の定温処理を60～100日間行うことにより葉の展開が促進できること等が明らかになりました。

また、プラスチックからの馴化適期について調査したところ、9～12月頃に実施することで、翌年の更新芽発生を促進する等、良好なことがわかりました。2～3月頃に馴化した株では更新芽が出にくくなります。

ソノハラトンポの育成管理

ソノハラトンポの播種用土は、硬質赤玉土・日向土・粉末ミズゴケ（4・



育成温室での出芽状況

4・2)の混合割合で生育が良好です。また、乾燥を防ぐための粉末のミズゴケでの表面被覆、及びプラ鉢での生育が良好でした。夏場の高温多湿時期の管理が非常に困難で、夏場約22℃の空調温室、或いはミストと扇風機を利用したガラス温室での管理が必要でした。4～5月には貝殻虫などが多く見られます。鉢表面の苔は、湿度保持に効果があるが2年程すると苔厚がまじり、更新芽の発生が抑制されるため2年程での植え替えが望ましい。花芽形成時期の植え替えは次年度の開花率低下に関係してきます。

育成温室でのライフサイクルは、一般的に5～8月に葉さきが枯れ始め12月頃まで株の萎縮が続きます。9月～2月頃が開花時期、12月～3月頃に結実、1月頃から更新芽が現れ始め6月頃まで栄養成長期、順調に葉が展開し



育成温室での生育状況

ます。環境が厳しい夏場は、葉枯れ及び株の萎縮が多く見られますが、涼しい環境が作れると開花が見られます。また、一株当たりの平均開花数は6輪、開花期間は60日間、開花から種子完熟まで約50日、採取時期は11月～2月です。花数は少ないが人工授粉は容易です。

おわりに

当財団では、今回のソノハラトンポをはじめ、オキナワセッコク、オキナワチドリ等、その他多くのラン科植物の無菌播種方法による増殖並びに育成技術の確立を図っています。また、収集した情報及び保存している植物を用い、展示会等を実施、希少植物の保護、保全の重要性等の普及啓発に努めています。

【宮里政智】



育成温室での開花状況



〔首里城公園〕

冊封使関係調査について

はじめに

琉球王国は、中国を中心とした支配体制下にあり、中国皇帝によって国王が任命されていた。これを冊封という。冊封は、1404年（中山王武寧）から始まり、琉球王国最後の国王の尚泰（1866年）まで続けた。

冊封のため中国から派遣される使者を冊封使といひ、新たな琉球国王の任命の際には400〜500名で来琉し、4〜8ヶ月間琉球に滞在した。その間の儀式として、亡くなった先王を弔問する「論祭」、国王を任命する「冊封」が行われ、それぞれの儀式の後には「論祭の宴」「冊封の宴」という宴が行われていた。そのほかにも芸能鑑賞をする「中秋の宴」等、冊封使の滞在中には7つの宴が催された。

滞在中の冊封使たちは、琉球の人々に多数の書を与える等交流があり、帰国後には琉球で見聞した事を記録に残している。

当財団では、「冊封使関係調査業務」を平成6・8・9年度の3年間実施し、冊封使に関する中国側・琉球側の資料の収集・分析を行い、冊封使の迎えから「論祭」「冊封」の儀式や、7つの宴の具体像を明らかにした。また、冊封使の書跡等の作品の整理を行い、儀式で使用する道具類のカルテを作成し、使用方法等を具体的に整理した。

この調査業務で明らかになった冊封

使関連の儀式や、7つの宴（冊封七宴）について、以下に時系列で記述する。この調査で主に引用した資料は1808年に行われた冊封の琉球側記録「琉球冊封使一件」である。

〔論祭〕

亡くなった前国王を祭る儀式を論祭という。論祭は、歴代国王を祀っている崇元寺（現那覇市道）で行われた。前国王の位牌が安置され、供物が供えられている寺の前庭で、儀式が執り行われた。

国王が、前国王への論祭文に向かって三跪九叩頭の礼（3回ひざまずき、9回頭を下げる礼）をした後、冊封正使、副使が位牌の前で香を焚き、お酒を捧げた。中国側役人によって論祭文が読み上げられた後、国王は論祭文の写し等を焼いた。

冊封正使・副使が前国王の位牌に一跪三叩頭（1回ひざまずき、3回頭を下げる礼）をして、位牌が寺の中に安置された時も拝礼した。国王と冊封正使・副使は互いに礼をして、論祭の儀式が終了する。

〔論祭の宴〕

論祭の儀式が終わった後、崇元寺の敷地内で冊封正使・副使には20碗の料理が振舞われた。他の中国側の随行者には、身分に応じ16碗・12碗の料理が出された。その後、国王は、宿泊所に帰る冊封使たちを門外まで送り、論祭の宴は終了する。

〔冊封〕

冊封とは、新国王を冊封使が中国皇

る詔書等を読み上げる時、国王や諸官達は、中国語の号令に従って、ひざまずいて聞いた後、三跪九叩頭の礼をする。次に、冊封正使からは中国皇帝より琉球国王への贈り物の反物を、副使からは王妃への贈り物の反物をそれぞれ国王に渡し、受け取った国王は闕庭から降り、三跪九叩頭の礼をした。

再度、国王は闕庭に登り、詔書・勅書を国の宝にしたの頂きたいと冊封正使・副使に願ひ出て、冊封副使から詔書・勅書をもらい受けた。（詔書・勅書の他に、中国皇帝の御書（中国皇帝の直筆の書）をもらい受ける）

国王が闕庭から降り、再び三跪九叩頭の礼をして、冊封儀式は終了する。

〔冊封の宴〕

冊封儀式の後、国王と冊封正使・副使は、正殿2階に行き、中国皇帝から贈られた御書を扁額にしたものを拝観した。

北殿に移った冊封正使たちには、お茶と20碗の料理が振舞われた。会食中には音楽の演奏や、芸能の披露があった。冊封正使、副使が帰途に着く際、国王は飲会門の外まで送った。

〔中秋の宴〕

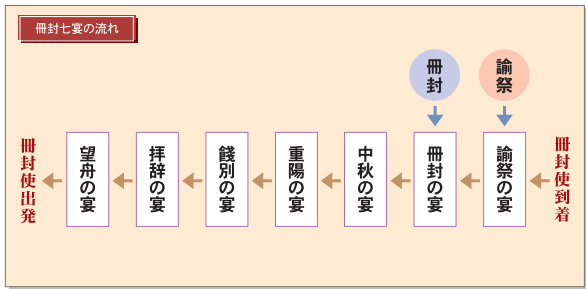
旧暦の8月15日に、首里城に冊封正使・副使を招いて、北殿の前に仮設の舞台を設けて舞踊や組踊等の芸能が披露された。これが、冊封第三宴の「中秋の宴」である。

北殿においては、冊封正使たちに20碗の料理が振舞われ、その時に琉球舞踊が演じられた。（1719年の冊封の際に、玉城朝薫によって作られた組踊



冊封儀式のイベント

帝の名において正式に認める儀式である。冊封式では、正殿の正面の御庭に冊封正使・副使が立ち、闕庭という台が作られる。闕庭の中には、中国皇帝から琉球国王に任命する「詔書」と、皇帝から贈られる品々を書いた「勅書」や、贈り物



の反物等が置かれている。

国王は、まず闕庭で香を捧げ、三跪九叩頭の礼をする。

詔書と勅書を読み上げるのは、南殿の前に作られた「宣讀台」という台である。中国側役人が琉球国王を任命す

を飾った舟（競争（ハリー））を見学した。その後、北殿に席を移した冊封正使たちには、20碗の料理が振舞われ、舞踊や組踊が上演された。この冊封第四宴を「重陽の宴」という。

〔饌別の宴〕

冊封第五宴では、国王が冊封正使・副使を北殿に招待し、料理が振舞われ、組踊などの芸能が上演された。これを「饌別の宴」という。

〔拝辞の宴〕

国王が冊封正使・副使を北殿に招待し、料理が振舞われ、組踊などの芸能が上演された。副使には金骨扇子が一本ずつ手渡された。踊りなどを鑑賞した後、国王一行は、跪三叩頭の礼をして大使館を去った。これが国王の行う最後の宴「望舟の宴」である。

〔望舟の宴〕

冊封第七宴では、冊封使の宿泊所である大使館（現那覇市東町）を国王が訪れ、冊封使たちに料理を振舞い、冊封正使・副使には金骨扇子が一本ずつ手渡された。踊りなどを鑑賞した後、国王一行は、跪三叩頭の礼をして大使館を去った。これが国王の行う最後の宴「望舟の宴」である。

おわりに

以上が、本調査で明らかになった、冊封使関連の儀式や、7つの宴（冊封七宴）についての概要である。現在、調査を基にした冊封儀式の再現イベントを首里城祭において披露しています。（詳しくは「公園ニュース&イベント情報」）

【泉千尋】



冊封儀式のイベントでの国王の拝礼



冊封儀式のイベント



# 米寿の由来

べいじゅのゆらい



ある時、子供が水汲みにいくと、白いひげの老人がその子供を見て「かわいそうな子供だ」と言っていた。それを聞いた子供が家に帰って母親に話すと、母親は急いでその老人を追いかけて会いに行き、その言葉の訳をたずねた。

すると、その老人は「おまえの子供は十八までの命だ」と答えた。母親はひどく驚いて「なんとか子供の命が延びる方法はないのですか」とたずねた。老人は「山奥に行くと、そこで子ぬ方（ニヌマフア）の星の神と、午ぬ方（ウマヌマフア）の星の神が碁を打っているから、そこに酒と肴を持って行って傍に置いてお願いするんだ。しかし碁が終わって向こうから話しかけるまで何も声を出してはいけない」と教えた。母親は「そうですか、わかりました」と言ってお家に戻った。

た。母親は二人の神の手の届くところに酒や肴を置いて、黙って離れずと座っていた。そして、この子ぬ方の星の神も午ぬ方の星の神も碁に夢中になりながらも、傍にある酒を取って飲んだり、御馳走を取って食べたりした。

碁が終わってちようど御馳走もなくなくなった頃、二人の神は人間の母親がいることに気がついた。「こんな所で人間が何をしているのだ」と一人の神が母親に聞いた。母親は「私の息子は、十八までの命といわれています。息子の命を延ばしてもらおうと、私はこうして酒と肴を差しあげようと持ってきて参りました」と答えた。

すると午ぬ方の星の神が帳簿を聞いて見て、「ああ、そうか、なるほど確かにおまえの子供の命は十八歳までだ。もうこれは帳簿に決められているからなあ、延ばせないなあ」と言った。けれども、子ぬ方の星の神は「しかし、人の御馳走を食べておいて、人

の願いを通さないというのは都合が悪い。礼儀というのを欠いてはいけないから、なんとかして延ばせ」と言った。すると午ぬ方の星の神が「仕方がない。それじゃあもう八つをあげよう。」と答えた。十八と帳簿に書かれているところに、下に八の字を書いたら読めないのです、上に八を書き加えたので八十八になった。それで、この子供は八十八まで寿命が延びたそう。それから、八十八の米寿の祝いをするようになったということである。

## 米寿（トーカーチ）について

米寿は数え88歳の祝いで、旧暦8月8日におこなわれる。沖縄では「トーカーチ」という。

「トーカーチ」とは米の拵切りに使う斗搨（とかき）からきた方言。かつては、盛った米の上に8寸（24cm）くらいの竹の斗搨を立て、お祝いに訪れる客に斗搨を一本一本配っていたことから米寿祝をトーカーチと呼ぶ。沖縄にはもともと米寿祝いの風習はなく、17世紀に薩摩から伝えられたものといわれている。

・子（にー）ぬ方（ふあ）…十二支の子の方向、すなわち北の方角をいう。ここでは人間の死を司る北極星の神。  
 ・午（うま）ぬ方（ふあ）…十二支の午の方向、南の方角にあたる。ここでは、人間の生を司る南の星の神。





実施期間／平成十九年十月二十六日(金)～十月二十九日(日) 十日間

■実施時間／九時～十八時

※首里杜館の図画ラウトコンテスト作品展示は、二〇時まで

■実施場所

①御庭／御座楽演奏・古典音楽・琉球舞踊  
 ②下之御庭(糸図座・用物座)／伝統芸能の宴・舞への誘い  
 ③首里城周辺(首里城御庭)／琉球王朝祭り(鳥堀交差点)／琉球王朝祭り(古式行列)

④那覇市国際通り(パレットくもじ)／安里)／琉球王朝絵巻行列

⑤守礼門／御庭／冊封使行列儀式

■実施内容

一、御座楽演奏・古典舞踊・琉球舞踊  
 御開門(ウケリジョ)の後、正殿の基壇上に於いて御座楽演奏及び古典音楽の演奏と、正殿前の御庭において、琉球舞踊(四つ竹)を披露します。

御座楽演奏／十月二十六日(金)～二十八日(日)、十月二十九日(日)／四日(日)／十月二十九日(日)

琉球舞踊／十月二十六日(金)～二十八日(日)／四日(日)

※十月二十六日(金)～二十七日(土)は、冊封儀式の実施のため、宣統台、闕庭等の設置に伴い、琉球舞踊(四つ竹)は、闕庭の前で演舞します。

二、伝統芸能の宴

十月二十六日(金)～二十八日(日)の間、下之御庭(糸図座・用物座)において琉球舞踊(組踊等を披露します。

三、舞への誘い

下之御庭(糸図座・用物座)において常設イベントとして「毎週水・金・土・日と祝日に展開している「舞への誘い」を期間十五周年記念として、十月二十九日(日)から十一月四日(日)まで拡充して琉球舞踊を披露します。

四、琉球王朝絵巻行列

十月二十八日(日)十二時三十分～午後二時三十分までの間、首里城祭のメインイベントとして、一般公募の国王・王妃並びに冊封使行列に加え、琉球古典舞踊、地域の伝統芸能等による行列総勢約、一〇〇名が那覇市国際通りの久茂地みずほ銀行前)牧志(南西観光ホテル前)までを練り歩く絵巻行列を実施します。

五、冊封使行列・儀式

十月二十七日(土)十一時から、八〇〇年に実施された名の歴史資料を基本に中国皇帝の名のもとに琉球国王の任命を行った冊封儀式の部を再現。世子(新国王)をはじめ琉球高官、正使、副使からなる中国皇帝の使者や琉球・中国演奏を奏でる御座楽など、総勢約六十五名が出演。守礼門から冊封使節団の行列が御庭に入り、御庭では、世子を始めとする琉球王府の役人が冊封使節団を迎え、新国王を任命する儀式を行います。



琉球の文化遺産を次代へ継ぐために

先の大戦で国内外に散逸してしまった貴重な琉球文化遺産を収集・保存するため、当財団では、市町村各種団体また多くの方々と協力を得て「首里城基金」を設立し、その事業内容の充実を図るべく、広く県内外に寄付を募っております。「首里城基金」の主旨をご理解いただき、皆様の温かいご支援をいただきます。ご希望申し上げます。

【首里城基金の受付】  
 〒902-2185  
 沖縄県那覇市首里金城町工一  
 (財)海洋博覧会記念公園管理財団  
 首里城公園管理センター  
 △お振込みの場合△  
 沖縄銀行首里支店 普通通 1318639  
 琉球銀行首里支店 普通通 6495  
 沖縄海邦銀行首里支店 普通通 0482155  
 口座名 首里城基金

首里城基金のしくみ

沖繩歴史文化の継承発展  
 文化遺産の継承発展  
 文化遺産の継承発展

▲基金利息

首里城基金

沖繩県及び市町村の出捐金

寄付金  
 ●個人 ●団体

基金台帳に記載(永久保存)



秋の楽しみいっぱい！  
 秋の楽しみいっぱい！  
 秋の楽しみいっぱい！

※詳しくは右下記イベント情報をご覧ください。

【無料入館日情報】10月14日(日)、21日(日)は、「都市緑化月間」のため熱帯ドリームセンター・海洋文化館が入館料無料になります。  
 ※沖縄美ら海水族館は有料です。

苗木の無料配布

秋の都市緑化推進運動にちなみ緑豊かな街づくりを推進するため、苗木の無料配布を実施します。

①10月1日～31日(8:30～) / 1日100鉢配布  
 ②10月7日、14日、21日(13:30～) / 1日1,000鉢配布

●お問合せ／植物園(TEL0980-48-3782)

場所	期間	料金
①都市緑化植物園	10月1日～31日	無料
②中央ゲート、噴水広場	10月7日、14日、21日	無料



ソテツを使った沖縄玩具作り体験 ～ソテツの虫ごを作ろう！～

おきなわ郷土村で楽しいおぼろが楽しく、ソテツの葉の虫ご作りを教えてください。昔ながらの自然のおもしろさをぜひお楽しみ下さい。

●10月の土・日・祝日(10:00～) ●定員30人程度(先着順)  
 ●お問合せ／業務課(TEL0980-48-2741)

場所	料金
おきなわ郷土村 地頭代の家	無料

鬼餅作り体験 ～沖縄伝統のお菓子、ムーチー作り！～

おきなわ郷土村でおぼろがやさしく、昔から沖縄で作られてきた鬼餅の作り方を教えてください。沖縄の人が鬼餅を食べるようになった由来を紙芝居を交えて楽しく紹介します。

●11月24日(土)・25日(日)(10:00～13:30) ●定員30人程度(要予約)  
 ●お問合せ／業務課(TEL0980-48-2741)

場所	料金
おきなわ郷土村 地頭代の家	無料

海洋文化館 アジア・オセアニアの民族芸能披露 ～ガムラン演奏会～

インドネシアバリ島の伝統的な音楽 ガムランの演奏会を開催します。魅惑の演奏を是非お楽しみ下さい。

●10月14日(日)・11月10日(土)  
 演奏会 13:00～13:30 15:00～15:30  
 演奏体験 14:15～14:45 15:30～16:00

※1回目の演奏会は噴水広場(雨天時は文化館)  
 ●定員無し 海洋文化館の入館料は必要。  
 10月14日(日)は無料入館日  
 ●お問合せ／業務課(TEL0980-48-2741)

場所	入館料のみ
海洋文化館	

平成十九年度 海洋博公園 十月十二二期イベント

秋の楽しみいっぱい！

沖繩にも秋らしい風が吹く季節になりました。夏の暑さも段階、行楽にぴったりの季節の到来です。

秋の海洋博公園では、自然や文化を楽しむ様々な催しをご用意して皆様のご来園をお待ちしています。インドネシアの伝統音楽「ガムラン」の演奏会や、沖繩の文化を体験できるお菓子やモチ作り、緑を身近に感じられる苗木の無料配布や緑の講習会等々！夏だけじゃない、秋もゆつたり楽しめる海洋博公園にぜひお越しください。

アダンによる沖縄の玩具作り体験～馬のおもち作り！～

おきなわ郷土村で楽しいおぼろが楽しく、アダンの葉で馬のおもち作りを教えてください。昔ながらの自然のおもしろさをぜひお楽しみ下さい。

●12月25日(火)～30日(日)(10:00～) ●定員30人程度(先着順)  
 ●お問合せ／業務課(TEL0980-48-2741)

場所	料金
おきなわ郷土村 地頭代の家	無料

都市緑化技術講習会

目指せ、緑のスペシャリスト！  
 都市緑化に関する施肥や緑化手法等の技術に関する講習会を開催

●10月5日(金)(13:20～17:00)  
 ●定員100名\*要予約  
 ●お問合せ／植物園(TEL0980-48-3782)

場所	都市緑化植物園	料金
		1,000円

亜熱帯緑化事例発表会

緑化意識の高揚、都市緑化の普及・啓発を目的に、亜熱帯に適した緑化技術等に関する発表会を開催します！

●10月12日(金)9:00～12:00  
 ●お問合せ／植物園(TEL0980-48-3782)

場所	料金
いちいれい興志川じんぶん館(うるま市)	無料

植物のクラフト作り～アダンで金魚を作ろう～

海辺でよく見かける葉っぱがトゲトゲしてバイナツルみたいな葉をつける植物、アダン。そのアダンの葉を材料に、沖縄に昔から伝わる金魚作りを体験♪

●10月1日～31日(8:30～17:30)  
 ●10名以上は要予約  
 ●お問合せ／植物園(TEL0980-48-3782)

場所	料金
都市緑化植物園	無料

10/7(日)「黒潮に抱かれて」放映スタート!

11月1日に開館5周年を迎える沖縄美ら海水族館では、沖縄・美ら海の原点「黒潮」をテーマにしたミニ番組「黒潮に抱かれて」を放映します。ぜひご覧ください！

●RBCテレビ/毎週日曜 18:26～18:29

※イベント実施内容は変更になる場合がございます。最新情報や詳細はHP等でご確認ください。またはお気軽にお問合せください。(HPアドレスは裏表紙参照)